

## 「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム」 課題概要

- 地域再生人材養成ユニット名 「 里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム 」
- 総括責任者名 「 学長 進村 武男 」
- 提案機関名 「 国立大学法人 宇都宮大学 」

### 地域の現状と地域再生に向けた取組状況

里山における鳥獣害が年々深刻化し、営農意欲に大きな打撃を与え、地域の更なる過疎化・高齢化を招くという、悪循環が発生している。宇都宮大学は、地域の課題を教育研究の現場に積極的に取り入れるため、「里山科学教育研究プロジェクト」を学内重点推進研究に位置付けている。宇都宮大学の地域貢献活動は、大学の地域貢献度ランキングで毎年全国トップクラスに評価されている。一方栃木県では、「第10次鳥獣保護事業計画」を策定し、この中で地域の相談役ともなる専門的な知識・技術を有する指導者を、必要とされる現場において適切に配置することを、施策の重要目標に掲げている。

### 地域再生人材創出構想

宇都宮大学と栃木県の連携により、地域における野生鳥獣の保護管理対策を担う「地域鳥獣管理士」を5年間で総計60人以上養成する。大学院修士課程の学生を対象とした総合的な対策を計画する能力を備えた「地域鳥獣管理プランナー」と、社会人を対象とした地域における対策を直接助言・指導する能力を備えた「地域鳥獣管理専門員」を養成するプログラムを編成する。宇都宮大学の教育研究実績と栃木県の実務経験を相互に補完して特別カリキュラムを編成し、講義、演習、現地実習、インターンシップを行う。事業の実施と平行し、地元住民、自治体等が連携して地域の市町を事務局に「里山野生鳥獣協働管理フォーラム」を構築して、地域鳥獣管理士の活躍を積極的に支援する。

### 自治体との連携・地域再生の観点

栃木県では、野生鳥獣保護管理施策を実施する際に必要とされる専門的な知識・技術を有する指導者の養成を、施策の重要な課題と位置づけている。栃木県が有する対象地域の特性や野生鳥獣の生息・被害状況、住民のニーズなどの現場の情報を踏まえた上で、大学でのこれまでの研究成果を生かした講義・演習や実践的な現地実習を行うことにより、求められる人材を養成する。これらの人材が、鳥獣害を課題とする県内各地域で活躍することにより、科学技術を背景とした野生鳥獣を寄せ付けないための自主的な取り組みが促進され、地域の再生につながる。

### ミッションステートメントの概要

深刻化する里山の鳥獣害対策を担う優れた人材として、「地域鳥獣管理士」を3年で30名、5年で60名養成する。このために宇都宮大学に地域拠点を形成し、里山鳥獣管理技術者人材養成プログラムを実施する。栃木県と宇都宮大学は、地域住民や市町とともに、地域鳥獣管理士の活動拠点となる里山野生鳥獣協働管理フォーラムを構築し、養成された人材の地域での活動を支援する。また、期間終了までに養成した地域鳥獣管理士と大学との共同研究を3件以上実施する。大学と自治体が相互の実績を補完・統合することで人材養成プログラムを構築し、鳥獣害対策の優れた能力を備えた人材を輩出することを通じて地域再生につなげる全国のモデルを創る。

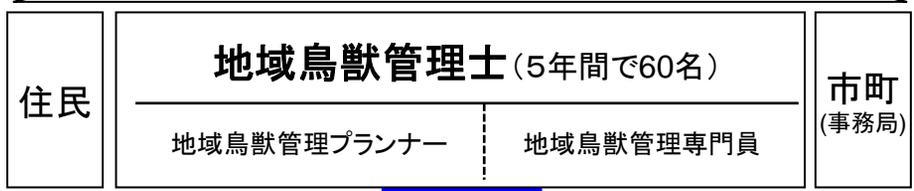
# 里山野生鳥獣管理技術者養成プログラムの実施体制

地域再生へ


**育成する人材と地域貢献**  
 野生鳥獣の保護管理に係る効果的な対策を総合的に計画  
 地域の実情に合わせた鳥獣害対策の実施を直接助言・指導



## 里山野生鳥獣協働管理フォーラム



連携協力

共同研究

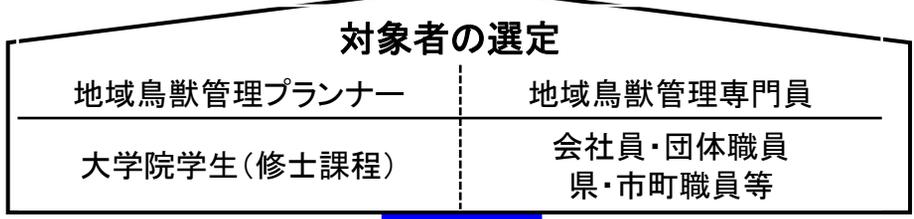
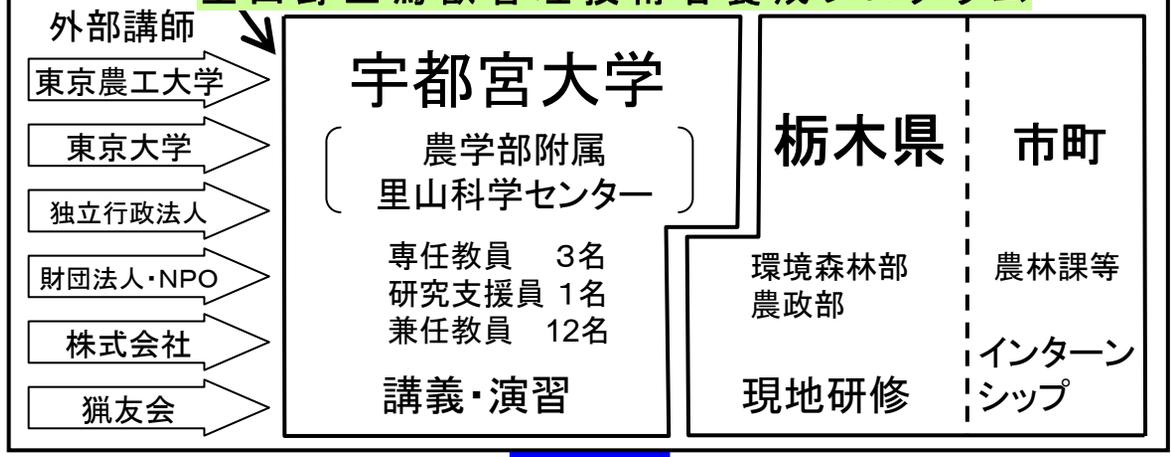


## 事業運営委員会

(学長・農学部長・栃木県・NPO・株式会社等)

総括監理

## 里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム




**地域の現状と課題**  
 深刻化する里山の鳥獣害が地域の営農意欲を減退させ、過疎化・高齢化を促進  
 鳥獣害対策を担う技術者の養成人材のネットワークの形成による効果的な対策

# 里山野生鳥獣管理技術者養成プログラムの実施内容

1年目 3年目 5年目

宇都宮大学  
里山科学センター  
講義・演習

## 里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム

地域鳥獣管理士

- ・地域鳥獣管理プランナー
- ・地域鳥獣管理専門員

栃木県  
現地実習

市町  
インターンシップ

## 里山野生鳥獣管理協働フォーラム

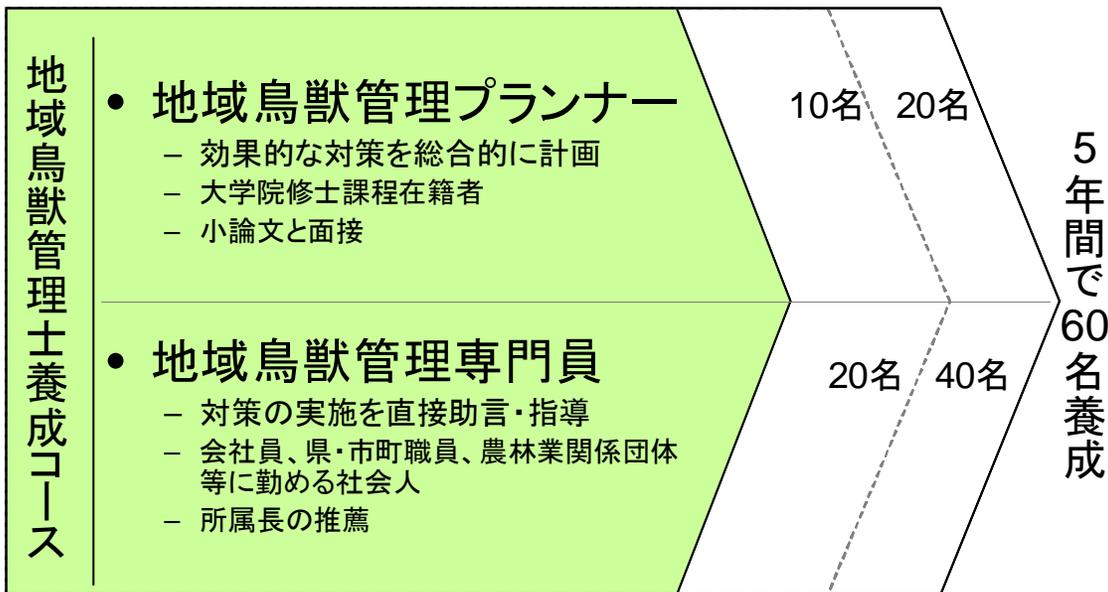
ネットワーク組織

地域鳥獣管理士

地域鳥獣管理  
サポーター

地元農家

地元企業



## カリキュラム構成の概要

	必修科目	選択科目
地域鳥獣管理プランナー養成コース (修了単位 18単位以上)	里山科学特論(2)・野生鳥獣生態学特論(2)・野生鳥獣管理学特論(2)・里山再生学特論(2)・里山科学演習(2)・野生鳥獣管理学演習(2)・インターンシップ(4)・修了論文(1)	野生鳥獣管理現地研修(1) ※5回以上の参加が必要
地域鳥獣管理専門員養成コース (修了単位 7単位以上)	現地研修会(2)・地域鳥獣管理計画書(1)	里山科学特論(1)・野生鳥獣生態学特論(1)・野生鳥獣管理学特論(1)・里山再生学特論(1) ※それぞれ1単位分の参加が必要  《自由選択科目》(履修は任意) 里山科学演習、野生鳥獣管理学演習、インターンシップ

※カッコ内の数字はコースの標準的な取得単位数を示す。

## ミッションステートメント

- |                |                        |
|----------------|------------------------|
| ○地域再生人材養成ユニット名 | 「 里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム 」 |
| ○総括責任者名        | 「 学長 進村 武男 」           |
| ○提案機関名         | 「 国立大学法人 宇都宮大学 」       |

### (1)地域再生人材創出構想の概要

里山で深刻化する野生鳥獣による農作物等の被害が営農意欲を減退させ、過疎化・高齢化を促進する悪循環が生じている。このために宇都宮大学と栃木県は、研究教育と実務実績をそれぞれ持ち寄り連携し、宇都宮大学に地域拠点を形成して、野生鳥獣の管理を行う技術者を養成する。プログラムの修了生には、地域の鳥獣害対策を担う「地域鳥獣管理士」の称号を授与する。地域住民や市町と連携して「里山野生鳥獣協働管理フォーラム」を組織し、地域鳥獣管理士を中心とした人的ネットワークを形成し、総合的な鳥獣害対策を推進して、栃木県が進めている野生鳥獣を寄せ付けない地域づくりを支援する。

### (2)3年目における具体的な目標

3年目には、大学院修士課程の学生を対象とした、鳥獣害対策の計画を策定することができる総合的な能力を備えた「地域鳥獣管理プランナー」を10名養成する。さらに、栃木県内の会社員、県・市町職員、農林業関係団体等に勤める社会人を対象とした、地域の実情に合わせた具体的な獣害対策を助言・指導できる実務的な能力を備えた「地域鳥獣管理専門員」を20名養成する。さらに、本事業を契機として構築されるネットワーク組織「里山野生鳥獣協働管理フォーラム」の運用を開始する。

### (3)実施期間終了時における具体的な目標

実施機関終了時には、「地域鳥獣管理プランナー」を20名、「地域鳥獣管理専門員」を40名養成する。さらに、「里山野生鳥獣協働管理フォーラム」の課題点を改善して地域鳥獣管理士を中心とした体制を確立する。

### (4)実施期間終了後の取組

宇都宮大学と自治体は、「里山野生鳥獣協働管理フォーラム」を通じて、地域鳥獣管理士の活躍を支援する。また、地域鳥獣管理士と大学との共同研究を3件以上実施する。

### (5)期待される波及効果

地域鳥獣管理士が活躍することによって、鳥獣害対策の効果が向上する効果や、野生鳥獣を素材とした新たな事業が創出される効果が期待される。一方で、大学と自治体が相互の実績を補完して人材養成プログラムを構築し、地域の求める人材を輩出して地域再生につなげる試みは、全国的に野生鳥獣による被害が深刻化する中で、一つのモデルになることが期待される。